

農薬使用リスク管理システム本格稼働へ

自動的に判定、警告

ラ・フランス ICタグ付け店頭へ

携帯電話を使った農業適正使用のリアルタイム判定で、農業を用いる前に適正な使用方法を確認することができる

コードを読み取り、リアルタイムで使用内容を判定・自動記録する試験も実施した。利用歴から「一履歴紙に書かないで、このソフトで自動的に判定して」えるのことに喜ぶ。「散布図が自動的に記録された。全利用者20人のう

客観的に情報を証明して「**信頼性の利点を話す**」。

客観的に情報を配明する」と信頼性の利点を重視する。

携帯電話による記事「ふたつ」「誰が」「ふたつ」「何を」「なぜ」「どのように」という5W1Hの情報を、確實に、しかも簡易に記述できる。同システムの開発の延長上には、農業だけでなく、肥料、飼料、動物医薬品など農業資全体で利用されており、念頭に置かれており、生産段階でのさらなる効化が期待できる。今回

【写真左上から右下へ】（左上）生産現場へ導入に向け、農家が携帯の使い方を学んだ（ＪＡてんどう、９月）↓（右上）生産現場）実際にシステムの操作を行うＪＡてんどうの高橋課長（９月）

↓(右中⇨流通) 段ボールに10タケが張
市場に入荷↓(右下⇨店頭) 本システムで
定が行われ、横浜水信の店頭に並んだラ・
ス。生産・流通の情報を読むことが出来る

食の安全・安心確保へ高い評価

同システムには、「J」を40品目の青果物用に終
「A向け」と「先進農家グ
ループ向け」の2系統が
いた使用内容をHP上で

ブ)を取得しており、作業上の規範、基準もチェック項目に加える。

実証された使い易さ

センサー、カメラと連動も

るよう汎用性と
いやすさ・多機
が追求され、先
農家向けは付加

センサー、

カメラと連動

功も
さか確認され、
今後の全国への
普及に向けて詰
め段階に入った。今後
小売りの流通圏にわけ
入出庫情報が組み合わ
れたものだ。これにより
フードチェーン全体の

農林水産省「平成17年度ユビキタス食の安全・安心システム開発事業」で開発・実証!

農薬ナビを活用した農薬使用リスク管理システム

農薬適正使用判定機能を実装し、防除基準・栽培計画の作成から栽培履歴の効率的な収集、作成が行えるトレーサビリティシステムです。ポジティブリスト制の対策に力強い味方になります。

防除基準・栽培計画作成

農薬適正使用判定

農藥使用・栽培履歷記帳

情報公開

JA向け実証システムの運用イメージ

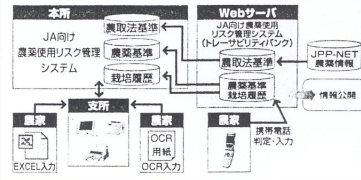
方除基準・栽培計画作成システム
この栽培方法・栽培目的にあわせた
基準・栽培計画の作成ができます。



■携帯電話等による現場警告・履歴自動記帳システム



■生産履歴情報公開システム



開発実証事業の成果

- 1) 農薬適正使用の事前判定と現場警告、農薬使用結果の履歴自動記録と
という仕組みの有効性が確認されました。
- 2) JA農協組組の組織特性・業務特性に適合したシステムが完成し、効率性
および実用性向上の効果が得られました。
- 3) 既存「モバイルシステム」との連携実証も成功、生産から流通、
加工、小売に至るフードチェーン全体のシステムにおける役割と機能
が明確になりました。
- 4) 利用者の評価が高まり、実用化システムとして、全国的普及が期待で
きることが明らかになりました。
- 5) 当システムは、山形県JAにどのような「プラス」により実証済です。

農薬ナビを活用した 農薬適正使用判定

■多段階・多基準農薬適正使用判定システム

法定基準	+	個別基準		
農取法基準		県基準	JA基準	その他基準

法的基準（農薬取締法）の他に個別基準（県基準・JA基準）などを設定でき、農薬の適正使用判定が行えます。

サービスの内容・商品名は予告なしに変更する場合がございます。*「農業適正使用ナビゲーションシステム(農業ナビ)」は、平成16年度先端技術を活用した農林水産省研究高度化事業にて(独)農業・生産系特定産業技術研究機構中央農業総合研究センターが開発したシステムです。